

新旧対照表

【分類例規（昭和 62 年 12 月 23 日蔵関第 1299 号）】

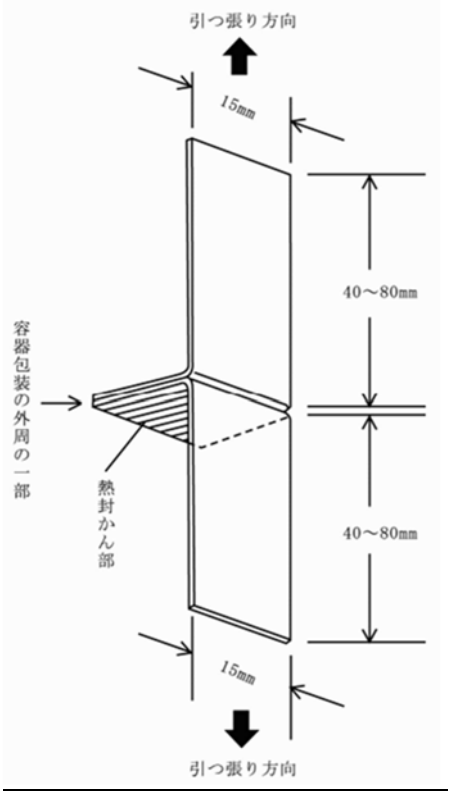
（注）下線を付した箇所が改正部分である。

改正後		改正前																	
16類	1.「気密容器」の解釈について	16類	1.「気密容器」の解釈について																
	関税率表第16類において、「気密容器」とは、容器の内圧と外圧とが異なっても空気を完全に遮断できる容器をいう。 通常使用されている気密容器には、次のようなものがある。 イ～ホ（省 略） ヘ そ の 他：プラスチックフィルム等から <u>成る</u> 容器であつても下記の基準を満たすものは、気密容器として取り扱ってよい。		関税率表第16類において、「気密容器」とは、容器の内圧と外圧とが異なっても空気を完全に遮断できる容器をいう。 通常使用されている気密容器には、次のようなものがある。 イ～ホ（同 左） ヘ そ の 他：プラスチックフィルム等から <u>なる</u> 容器であつても下記の基準を満たすものは、気密容器として取り扱ってよい。																
	(プラスチックフィルム等から <u>成る</u> 気密容器の基準)		(プラスチックフィルム等から <u>なる</u> 気密容器の基準)																
	<table><tr><td>項目</td><td>基準</td></tr><tr><td>状態</td><td>(省 略)</td></tr><tr><td>酸素透過度</td><td>温度20℃、乾燥状態において1 ml／m²・24 h・atm以下であること</td></tr><tr><td>密封部の強度</td><td><u>密封した容器包装の熱封かんした部分を次の図のように切りとって開き、その開いた両端を毎分300±20mmの速度で引っ張り、熱封かん部がはく離するまでの最大荷重を測定した値が23 N以上であること</u></td></tr></table>		項目	基準	状態	(省 略)	酸素透過度	温度20℃、乾燥状態において1 ml／m ² ・24 h・atm以下であること	密封部の強度	<u>密封した容器包装の熱封かんした部分を次の図のように切りとって開き、その開いた両端を毎分300±20mmの速度で引っ張り、熱封かん部がはく離するまでの最大荷重を測定した値が23 N以上であること</u>	<table><tr><td>項目</td><td>基準</td></tr><tr><td>状態</td><td>(同 左)</td></tr><tr><td>酸素透過度</td><td>温度20℃、乾燥状態において1 ml／m²・24 h以下であること</td></tr><tr><td>密封部の強度</td><td><u>熱封かん強度試験で測定された値が23 N以上であること（熱封かん強度試験の方法は「食品、添加物等の規格基準（昭和34年12月厚生省告示第370号）第3器具及び容器包装の部 B 器具又は容器包装一般の試験法」の項に示す方法による）</u></td></tr></table>	項目	基準	状態	(同 左)	酸素透過度	温度20℃、乾燥状態において1 ml／m ² ・24 h以下であること	密封部の強度	<u>熱封かん強度試験で測定された値が23 N以上であること（熱封かん強度試験の方法は「食品、添加物等の規格基準（昭和34年12月厚生省告示第370号）第3器具及び容器包装の部 B 器具又は容器包装一般の試験法」の項に示す方法による）</u>
	項目		基準																
状態	(省 略)																		
酸素透過度	温度20℃、乾燥状態において1 ml／m ² ・24 h・atm以下であること																		
密封部の強度	<u>密封した容器包装の熱封かんした部分を次の図のように切りとって開き、その開いた両端を毎分300±20mmの速度で引っ張り、熱封かん部がはく離するまでの最大荷重を測定した値が23 N以上であること</u>																		
項目	基準																		
状態	(同 左)																		
酸素透過度	温度20℃、乾燥状態において1 ml／m ² ・24 h以下であること																		
密封部の強度	<u>熱封かん強度試験で測定された値が23 N以上であること（熱封かん強度試験の方法は「食品、添加物等の規格基準（昭和34年12月厚生省告示第370号）第3器具及び容器包装の部 B 器具又は容器包装一般の試験法」の項に示す方法による）</u>																		

新旧対照表

【分類例規（昭和 62 年 12 月 23 日蔵関第 1299 号）】

（注）下線を付した箇所が改正部分である。

	改正後	改正前
<p>2105.00</p>	<p>1. アイスクリーム</p> <p>輸入統計品目表第 2105.00 号の国内細分において「アイスクリーム」には、生乳、牛乳若しくは特別牛乳又はこれらを原料として製造した食品を加工し、又は主要原料としたものを凍結させたもののうち、乳固形分 3.0%以上を含むものを分類する。</p> <p>なお、アイスクリーム用のミックス及びベース等通常その</p>  <p>The diagram shows a cross-section of a container with a central vertical section and side flaps. Labels include: '引っ張り方向' (pulling direction) with arrows pointing up and down, '15mm' for the side flap width, '40~80mm' for the central section height, '容器包装の外周の一部' (part of the outer periphery of the container packaging) pointing to the side flaps, and '熱封かん部' (heat-sealed lid part) pointing to the top and bottom edges of the central section.</p>	<p>2105.00</p> <p>1. アイスクリーム</p> <p>アイスクリームには、生乳、牛乳もしくは特別牛乳又はこれらを原料として製造した食品を加工し、又は主要原料としたものを凍結させたもののうち、乳固形分 3.0%以上を含むもの（発酵乳を除く。）を分類する。</p> <p>ただし、アイスクリーム用のミックス及びベース等通常そのままでは食用に供さないものを除く。</p>

新旧対照表

【分類例規（昭和 62 年 12 月 23 日蔵関第 1299 号）】

（注）下線を付した箇所が改正部分である。

改正後		改正前	
3926. 90	<p>ままでは食用に供さないもの並びに冷凍したヨーグルトは第 21. 05 項には分類されないことに留意する。</p> <p>2. 押出成形された網地の分類例規について</p> <p><u>国際分類例規 3926. 90 「1. 網地」は、押出成形によって作られたプラスチックの網地が同号に分類されることを示している。</u></p> <p><u>押出成形による製網方法の一つに、円筒形で側面に穴が開いた内部ダイ及び外部ダイが逆方向に回転しながらプラスチックを射出して網目を作る方法がある。この時、両方のダイのノズルが重なるごとに射出されたフィラメントが交差して節ができる。</u></p> <p><u>このような押出成形によって作られたプラスチックの網地は、フィラメントの太さにかかわらず同号に分類される。</u></p>	3926. 90	<p>2. 押出成型された網地の分類例規について</p> <p><u>（解説）</u></p> <p><u>分類例規第 1 編中第 3926. 90 号の 1 「網地」の解釈は次によることとする。「押出成型によって作られたプラスチックの網地で、管状又は扁平なものをいい、フィラメントの太さは問わないものとする。」</u></p> <p><u>なお、O・P 設定の際の事例としては、次のものがあった。</u></p> <p><u>円筒形の内部ダイと外部ダイを逆方向に回転させながら、プラスチックを射出させてメッシュを作るもので、内部ダイ及び外部ダイのノズルが重なるごとに節ができるものである。</u></p>
4409. 10 ～ 4409. 29	<p>1. 引抜材</p> <p><u>関税率表第 4409. 10 号、第 4409. 21 号、第 4409. 22 号及び第 4409. 29 号において「引抜材」とは、その製法にかかわらず、横断面が円形で、楊枝、木くぎ、竹串又はダボ（家具等の結合部に用いるもの）の製造に使用されるような細長い棒状のものをいう。</u></p> <p><u>なお、端をとがらせたものは第 44. 09 項には分類されないことに留意する。</u></p>		<p>（新 規）</p>
4409. 21	<p>1. 竹製の串</p> <p>本品は、竹の細い引抜材を定寸（約 10～15 センチメートル）に切ったもの又はその一端を削ってとがらせたものである。輸入後、加工することなく一般にそのまま食品の串刺しに使用される。</p>	4409. 21	<p>1. 竹製の串</p> <p>本品は、竹の細い引抜材を定寸（約 10～15 センチメートル）に切ったもの又はその一端を削ってとがらせたものである。輸入後、加工することなく一般にそのまま食品の串刺しに使用される。</p>

新旧対照表

【分類例規（昭和 62 年 12 月 23 日蔵関第 1299 号）】

（注）下線を付した箇所が改正部分である。

改正後		改正前	
	<p>定寸に切ったものは、引抜材を一定の長さに切断したのみでそれ以上の加工が<u>施</u>されていないため、第 44.09 項に属し、<u>竹製の引抜材</u>として第 4409.21 号－1 に分類される。</p> <p>一端を削ってとがらせたものは、引抜材を一定の長さに切断し、更に加工したものであるため、第44.21項に属し、<u>竹製の串</u>として第4421.91号－1 に分類される。</p>		<p><u>定寸に切ったもの</u> 第 4409.21 号－1</p> <p><u>一端を削ってとがらせたもの</u> 第 4421.91 号－1</p> <p>定寸に切ったものは、引抜材を一定の長さに切断したのみでそれ以上の加工がされていないので、<u>引抜材</u>として第 4409.21 号－1 に属する。</p> <p>一端を削ってとがらせたものは、引抜材を一定の長さに切断し、更に加工したものである<u>ので、一種の製品</u>として第 4421.91 号－1 に属する。</p>